資料２

公共事業評価に係る意見について（案）

事前評価対象事業

（仮称）新球技場整備事業

北九州市公共事業評価に関する検討会議

平成 25 年 4 月 19 日

１　対象事業

事業名	事業箇所	事業費	事業期間（年度）
(仮称)新球技場整備事業	小倉北区 浅野三丁目	約 89 億円 本体建設費：約 76 億円 設計費等　：約３億円 道路移設費：約 10 億円	H２５ ～ H２８

２　各構成員の主な意見

北九州市公共事業評価に関する検討会議での意見は次のとおりである。

今般の検討は、平成２３年度に行った、事業構想段階における「事前評価１」に引き続き、「事前評価２」として、市が策定した具体的な事業計画（案）に対して行ったものである。

検討の結果、新球技場の整備に当たり、事業の必要性、有効性、効率性それぞれの観点から検討がなされており、「（仮称）新球技場整備事業」を実施することについて、すべての構成員が、「異論はない」との意見であった。

しかし、今後、具体的に事業を進めて行くに当たっては、下記の点について留意すべきであるとの意見があった。

(1)　市民説明について

事前評価１以降、より多くの市民層に対し、属性が偏ることのないよう配慮しつつ、積極的に市民への説明、意見の把握を行っており、過半を超える賛同を得ているところである。

今後、「（仮称）新球技場整備事業」を具体的に進めていくにあたっては、引き続き、市民に対して事業内容の検討状況の詳細など、適切な情報を提供しながら、丁寧な説明を継続していくべきである。また、賛同の割合が比較的低い属性について、その要因を分析し、今後の事業実施に役立てることが重要である。

(2)　まちづくりについて

新球技場はハイレベルなスポーツを観戦できる高規格な施設という点だけでなく、街のにぎわいを創出するなど、北九州市を盛り上げるツールとしても期待されている。

こういった点を踏まえ、スタジアムと小倉駅や魚町商店街等との間の回遊性の向上を図るため、周辺施設や民間事業者、市民・ＮＰＯ団体等と連

携した取り組みを行うことが重要である。また、試合開催日以外の施設活用についても、積極的に取り組んでいくべきである。

(3)　ＰＦＩ事業としての案件形成の方向性について

新球技場は、事業手法としてＰＦＩ手法で行うこととしており、設計・建設・維持管理・運営を一体的に扱うことによる事業コストの削減や、民間事業者の技術的能力や管理運営のノウハウなどを活用できるといった効果が期待できる。

しかし、そのためにはＰＦＩ事業者にとって魅力的な事業となるよう、事業実施の自由度を持たせるなど、事業者の参入意欲や独創的な管理運営への意欲を高める仕組みを検討する必要がある。

(4)　ギラヴァンツ北九州について

新球技場整備事業は、ギラヴァンツ北九州の持続的な発展と密接に関連しているため、クラブの経営改善に向けた取り組み状況や財務状況について、北九州市としても、継続的に注視していく必要がある。

また、ギラヴァンツ北九州がわが街のチームとして、多くの市民に浸透する取組みについて、これまで以上に積極的に行う必要がある。

参 考

１　「事前評価２」における議事等の経過

(1)　第１回検討会議（平成 25 年 2 月 28 日）

○ 事業課から、昨年度の「事前評価１」を終え、検討を進めてきた「具体的な事業計画内容（陸上のみの構造で収容人数１万 5,000 人とし、事業費を約 89 億円に縮小する案等）」や、「事前評価１における公共事業評価委員会意見に対する対応状況（①市民意見の把握、②ギラヴァンツ北九州に対する市民の盛り上がり、③街のにぎわいづくり、④整備費）」について説明があった後、事務局から「内部評価結果」の報告があり、質疑応答が行われた。

○ 最後に事務局に対して、第 2 回検討会議に向け論点整理を行うように指示した。

(2)　第２回検討会議（平成 25 年 4 月 12 日）

○ 第１回検討会議での議論を、「ギラヴァンツ北九州について（財務状況）」、「市民説明の機会拡大及び市民意見の把握について」、「新球技場のコンセプトの具体化について」、「ＰＦＩ事業としての案件形成の方向性について」、「費用便益分析について」の５つの論点に整理し、質疑応答を行った。

○ 最後に、現時点での検討会議の意見として、新球技場の建設に異論がないか各構成員に確認を行ったが、すべての構成員が「異論はない」との意見であった。

○ これまでの検討会議での意見を整理し、第３回検討会議へ提示するよう事務局に指示した。

２　北九州市公共事業評価に関する検討会議構成員名簿

（五十音順、敬称略）

氏　名	役　職　等
伊藤（いとう）　解子（ときこ）	北九州市立大学都市政策研究所　教授
上田（うえだ）　直子（なおこ）	北九州市立大学国際環境工学部　教授
久間（くま）　敬介（けいすけ）	㈱日本政策投資銀行　広報・CSR 室　課長
辰巳（たつみ）　浩（ひろし）	福岡大学工学部　教授
晴山（はれやま）　英夫（ひでお）	北九州市立大学　名誉教授
福山（ふくやま）　ミツエ	福山ミツエ一級建築士事務所　所長
柳井（やない）　雅人（まさと）	北九州市立大学経済学部　教授

（平成 25 年４月現在）

※　「事前評価１」における議事等の経過

■　第１回評価委員会（平成２３年１０月１３日）

○ 事業課から、事業概要及び主な評価視点となる「事業の必要性（整備検討の経緯、現在の球技場である本城陸上競技場の現状と課題等）」や、「事業の有効性（建設による経済波及効果や整備後の消費経済効果等）」などについて説明があった後、事務局から『内部評価結果』の報告があり、質疑応答が行われた。

○ 第２回委員会は現地視察を行うこととし、事務局に対して、第３回委員会において第１回及び第２回委員会での論点整理を行うように指示した。

■　第２回評価委員会（平成２３年１０月２５日）

○ 球技場等の状況を把握するため、建設候補地である小倉駅新幹線口、現在の球技場である本城陸上競技場及び建設予定と同規模であるベストアメニティスタジアム（鳥栖市）の現地視察を行った。

○ 建設候補地である小倉駅新幹線口では、事業課から整備イメージの説明があった。本城陸上競技場及びベストアメニティスタジアム(鳥栖市)では施設管理者とスタジアムの維持管理等について意見交換を行った。

■　第３回評価委員会（平成２３年１１月４日）

○ 前回委員会までの議論を、①「本城陸上競技場改修と新球技場新設と比較した上での総合的な整理」、②「本城陸上競技場と新設（小倉駅新幹線口）の経済波及効果比較」、③「本城陸上競技場の今後の活用」、④「まちづくりの視点」、⑤「球技専用・兼用施設の比較」、⑥「岸壁の耐震性などの検討」、⑦「津波対策、地震対策などの防災面の検討」、⑧「ギラヴァンツ北九州への応援（機運の盛り上げ）」、⑨「市民説明の機会拡大及び市民意見の把握」の９つの論点に整理し、質疑応答を行った。

■　第４回評価委員会（平成２３年１１月１１日）

○ 第３回委員会での「本城陸上競技場と小倉駅新幹線口の試合数や観客数等の算出根拠が不明確」などの意見を受け、事業課から再度、消費経済効果試算の考え方などについて説明があった。

○ その後、事業課から「経済効果試算の根拠の明確化」及び「本城陸上競技場の改修コストの算出」について、専門的な知見を有する外部機関などを利用した再調査・検討を行った後、再度委員会で議論いただきたいとの申し出があった。

○ 事業課からの申し出に対して、委員会として、事業を進めていく上で試算する必要がある「経済効果試算」については、前倒しで再試算することに異論はないが、「改修コスト」については、改めて試算の必要はないという結論に達した。

○ 次回委員会において、事業課からの「経済効果試算」の報告を受けるとともに、これまでの評価委員会の意見を「公共事業評価に係る意見について（案）」としてまとめ、提示するよう事務局に指示した。

■　第５回評価委員会（平成２４年２月２７日）

○ 事業課から「経済効果試算」について報告があった。

○ 事務局から、これまでの委員会内容や現地視察等を踏まえた「公共事業評価に係る意見について（案）」が提示され、委員会において確認した。